第１回札幌市生涯学習推進検討会議

日時：平成17年12月16日（金）９時30分～
場所：札幌市教育委員会　４階　教育委員会会議室

１　委嘱状の交付
２　教育次長あいさつ
３　委員紹介
４　座長、副座長の選出
　　Ｐ１～Ｐ３

５　議事
　①　事務局資料説明　　Ｐ３～Ｐ８
　②　質問・協議　　Ｐ８～Ｐ２９

○事務局　皆さんおはようございます。定刻を回りましたので、第１回目にきょうなりますけれども、札幌市生涯学習推進検討会議を始めさせていただきます。

それでは、早速ではありますけれども、検討会議の開催に先立ちまして、末廣教育次長から一言ごあいさつを申し上げます。

○教育次長　どうも皆さんおはようございます。教育委員会の末廣でございます。

皆様方には師走の何かとお忙しいところ、また早朝、御出席をいただきまして、本当にありがとうございます。心から御礼を申し上げたいと存じます。

教育長はあいにく、幼保一元施設の実情調査ということで、今東京の方に行ってございまして、出席がかないませんので、私がかわりましてごあいさつをさせていただきたいと存じます。

このたび皆様方には、本日から１年間、これは議論が白熱すると２年、３年になる可能性もございますけれども、今のところ１年間ということで、札幌市生涯学習推進検討会議委員として御委嘱を申し上げることとなりました。本来でございますと、お一人ずつに委嘱状を差し上げるところでございますけれども、今回略式でまことに恐縮でございますけれども、皆様方のお手元に置かせていただきました。どうぞよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

さて、本市では、平成７年４月、現在の札幌市生涯学習推進構想を策定いたしました。「ちえりあ」の愛称で市民の皆様に親しまれております札幌市生涯学習総合センターの建設、あるいは、市民の多彩な学習ニーズに対応した講座を提供する「さっぽろ市民カレッジ」の開設など、市民の生涯学習活動を支援するさまざまな施策を進めてきたところでございます。

しかし、現構想を策定いたしましてから、10年を経過しているということで、我が国を取り巻く社会経済環境というものが大きく変化してございます。したがいまして、生涯学習に求められる役割もそれに対応して見直すべき時期にあろうかと思います。

そのため、昨年策定されました市全体の３カ年計画でございます「札幌新まちづくり計画」におきまして、子どもから高齢者まで市民のだれもがさまざまな学習に取り組み、その成果を地域の活動などに発揮できる環境をつくっていくという基本方針のもと、新しい時代にふさわしい本市の生涯学習推進の指針となる新たな生涯学習推進構想の策定が計画されたところでございます。

今後、委員の皆様におかれましては、御多忙中の御審議ということで大変御苦労をおかけすると存じますが、それぞれの分野におきましてのすぐれた御見識と専門的な知識・経験を遺憾なく発揮され、また、日ごろお感じになっておられます生涯学習への思いを率直にお話をいただき、新たな構想の策定に向けましてお力添えを賜りますようお願い申し上げるわけでございます。

最後になりますけれども、皆様方の御健勝、そして、この検討会議が実り多き会議でありますことを祈念いたしまして、簡単でございますけれども、ごあいさつとさせていただ

きます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　まず、このたび検討会議の委員さんに就任していただきました皆さんの御紹介を私の方からさせていただきます。

皆さんのお配りしてあります資料の４となっていると思いますけれども、委員さんの名簿を配布させていただいております。順に私の方から御紹介申し上げます。

（委員紹介　省略）

○事務局　続きまして、この会議の検討会議をこれから総括していただく座長さん、それからまた、補佐をお願いする副座長さんの選任に入らせていただきたいと思います。

座長、副座長の選任につきましては、私どもの要綱の中でも委員の互選ということになっておりますけれども、選任について皆さんの方から何か御意見ございましたら、お願いしたいと思いますが。

（「事務局の方からあればよろしくお願いします」「事務局案があれば」の声あり）

○事務局　初回からいきなり互選というのもなかなか意見出ないかと思います。今事務局案ということでお話いただきましたけれども、私どもといたしましては、今回、この委員の構成の中に社会教育委員さんが全員入っておられます。社会教育委員の議長をしておられます久村委員、また、副議長をしておられます木村委員に、それぞれこの会議の座長、副座長をお願いしてはどうかなというふうに思っておりますけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局　異議なしという声をいただきましたので、この会議の座長としまして久村委員、また副座長に木村委員ということで、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

では、お二方には正面の方に、座長席、副座長席の方にお移りいただきたいと思います。

大変恐縮でございますけれど、座長さん、副座長さんから、一言お願いできますか。

○座長　久村でございます。大変な重い役目の会議の議長ということで、果たしてうまく務まるかどうか、大変心許ないのでございますけれども、御指名でもございますので、担当をさせていただきます。

先ほど、末廣次長からもお話ございましたように、これは将来の札幌市の生涯学習の方針を決めるという、大変な重責を負っておりますので、どうぞ皆様方の御支援と御協力、それを心からお願いして、責を果たしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○副座長　副座長を務めるということになりました木村です。私は北海道大学の高等教育機能開発総合センターの生涯学習計画研究部というところに所属しておりまして、ちょうど私どものセクションが発足したときに、前の生涯学習推進構想がつくられて、その策定過程にかかわったという経過があります。生涯学習構想の見直しが迫られているわけですけれども、私どものセクションは大学の改革の中で見直しが迫られておりまして、ちょうどそういう節目になっているので、座長を補佐してしっかりやりたいと思いますけれど

も、この10年の間に、例えば市民カレッジが誕生しましたし、それから新しい新まちづくり計画の中では、例えばまちづくりセンターのようなものができて、新しいコミュニティーの創造をしながら、生涯学習の新しいあり方が求められていると思いますので、皆さんと一緒に議論していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局　どうもありがとうございました。

それでは、ここから先は、久村座長に引き継がせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○座長　それでは、お手元の式次第に従って審議を進めてまいりますけれども、まず、その前に、この会議には要綱がございまして、その第５条の第４項に「この会議は、原則公開とする」というふうにうたわれております。したがいまして、今後この会議は、公開を原則といたします。ただ、同じ条項のところに、委員の過半数の要請があれば非公開も可であるというような文言もございますので、今後の会議につきましては、その都度、委員の皆様の御意見等を拝聴しながら、ちょうだいしながら、臨機応変に進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、この会議次第にのっとってのお話でございますけれども、まず、この会議の設置目的といいますか、趣旨ですね。設置の趣旨、それと及び今後のスケジュール等について、事務局から御説明をいただきたいと思います。

○事務局　今回開催いたしました生涯学習推進検討会議の審議内容につきまして、まず、資料１の新たな生涯学習推進構想の策定に基づきまして、御説明をいたします。

新たな構想の策定に至る背景といたしましては、平成７年４月に「札幌市生涯学習推進構想」を策定してから10年が経過し、社会環境の変化に伴い、生涯学習に求められている役割を見直す必要が生じてきました。

そのため、平成16年度から18年度までの３カ年の市全体の実施計画である「札幌新まちづくり計画」において、子どもから高齢者まで、市民のだれもがさまざまな学習に取り組み、その成果を地域の活動などに発揮できる環境をつくっていくという基本方針のもと、新たな生涯学習推進構想の策定に取り組んでいくことが決まりました。

今回の構想の位置づけとしましては、今後おおむね10年間の本市の生涯学習推進施策の指針として策定することとしまして、平成12年に策定されました札幌市全体の20年間の計画である「第４次札幌市長期総合計画」の個々の分野を担う、いわゆる個別計画として位置づけ、先ほど述べました「札幌新まちづくり計画」や、教育委員会で昨年９月に策定されました「札幌市教育推進計画」など、策定済みのさまざまな市の関連する計画との整合性について留意していきます。

次に、策定体制としましては、市の内部で実施する生涯学習にかかわる施策を総合的かつ体系的に推進する組織として、平成８年４月に設置しました「札幌市生涯学習総合推進本部」で全庁的な検討を進め、策定することとします。推進本部の詳細につきましては、資料２になりますけれども、その組織図のとおりとなっているところでございます。

私ども事務局では、準備作業として、市民の声を聞く課で毎年実施しております市政世論調査に生涯学習の項目を盛り込み、８月上旬に実施しております。あわせて、カルチャーセンターなどの民間教育事業者、大学等高等教育機関、専修学校・各種学校、生涯学習にかかわりの深い市民活動団体・ＮＰＯなどを対象とするアンケート調査を９月に実施いたしました。

また、前回構想に記載された事項の状況について把握するため、市内部の関連部局に確認をしております。

これまでは、今回の新たな構想の策定に当たっての市内部の状況として説明させていただきました。今回、皆様に御就任いただいた札幌市生涯学習推進検討会議を設置いたしましたのは、このような市の新たな生涯学習推進構想の策定の過程で、幅広い市民の方の意見と各方面の専門的な見識を取り入れていくことを目的としております。

そのため、15名という限られた数の中で、社会教育委員の方、有識者の方の専門とする分野のバランスについて考慮いたしまして、市民の方の意見を取り入れるため、委員の公募を行ったところでございます。

公募委員３名の方につきましては、８月から９月までの期間に応募されました23名の方の中から、書類による第１次審査、面談による第２次審査を経て、参加いただくこととなった３名ということになります。

今後、市内部の生涯学習総合推進本部で協議した内容につきまして、この検討会議で意見をお伺いすることになりますので、委員の皆様の御協力をお願い申し上げます。

なお、スケジュールにつきましては、検討会議のスケジュールを示しましたＡ４判の資料５という、札幌市生涯学習推進検討スケジュールという資料、それから、その次にあります構想策定全体像を示したＡ３判の資料６という資料がございますが、まず、Ａ４判の資料５のスケジュールをごらんください。

検討会議は、構想策定までに５回の開催を予定しております。第１回目となります今回と、それから次回の２回にわたって、札幌市の生涯学習における現状と課題について検証し、意見を伺うことになります。第３回目で今後札幌市が進めるべき生涯学習の方向性とその具体策について御協議いただき、第４回には素案について意見を伺うことを予定しております。構想の素案については、パブリックコメントという手続でさらに市民の皆様方から御意見をいただいた上、最終的な構想案について内容を御確認していただく形になります。

会議の頻度といたしましては、おおむね２カ月に１回の開催となる予定でございます。

次に、Ａ３判の資料６、皆様の御参加いただく検討会議を含めた全体スケジュールをごらんください。

今後、市内部の、一番左側の真ん中より下になりますけれども、生涯学習総合推進本部で現状の分析、課題の抽出、進めるべき方向性、具体的な施策について順次検討してまいりますが、それぞれの項目について順次検討会議の場で御意見を伺い、その意見を反映さ

せつつ、新たな構想の形をつくっていくという大まかな流れになります。

なお、構想の策定は、平成18年10月を予定しております。

以上で、まず御説明を終わらせていただきます。

○座長　どうもありがとうございました。

ただいま事務局から、この会議の設置の趣旨ですね。それと今後のスケジュールの御説明がございました。ただいまの御説明等に関しまして、どなたか御意見あるいは御提案ございますか。特にスケジュール等に関していかがでしょう。

よろしゅうございますか。御意見ございませんか。

よろしゅうございますね。

余り細かいので、さっと見てよろしいもよろしくないも言いづらいのでないかと思いますけれど、１年という限られた時間制限もございますし、やはりこのペースで行かないと、恐らくおくれが生ずると思うのですね。

では、このスケジュールで今後この会を進めさせていただくということでよろしゅうございますね。

では、そうさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、会議次第でございますけれども、６番目ですね。引き続きまして御審議、札幌市の生涯学習の現状でございますけれども、これも事務局から御説明いただけますか。

○事務局　札幌市生涯学習の現状について御説明いたします。

Ａ３判の資料７になります。生涯学習にかかわる現在までの経過をごらんください。

まず、左側の表になりますけれども、国・北海道の動向をごらんください。

そちらに平成２年７月、「生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律」、いわゆる「生涯学習振興法」が施行され、その法律のもとに設置された国の諮問機関である生涯学習審議会から、平成４年７月、「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」という答申が出されました。

その答申の抜粋が資料の左上にございますが、その中で、当面重点を置いて取り組むべき四つの課題として、「社会人を対象としたリカレント教育の推進」「ボランティア活動の支援・推進」「青少年の学校外活動の充実」「現代的課題に関する学習機会の充実」が指摘されております。

これらの国の流れを受けた札幌市の動向について、右側の表をごらんください。

平成３年になりますけれども、社会教育委員会議から「札幌市における生涯学習推進のあり方について」の提言を受けまして、市内部で関係部局からなる札幌市生涯学習構想策定委員会を設置し、さらに市民の意向を直接反映するために設置した生涯学習懇話会、教育委員会会議や社会教育委員会議での検討を重ねまして、平成７年４月に、この札幌市生涯学習推進構想を策定いたしました。

この現構想では、札幌市の生涯学習体系を構築するため、資料の右側に抜粋しておりますけれども、三つの柱を生涯学習推進の基本的方向性として主な施策や事業を示しまし

た。

一つ目は「自己を高める」で、市民一人一人が生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と力を身につけ、健やかな心身と感性をはぐくむとともに、社会人のリカレント教育を進めることをうたっております。

二つ目は「活力ある街を創る」で、地域活動や青少年健全育成を進める一方、産業を担う人材として能力開発を進め、環境問題を初め、現代的な課題について学ぶ必要性を説いております。

三つ目は「札幌で結ぶ」で、人・施設・学習機会・情報を結び、市民の生涯学習を支える学習環境の整備について示しています。

また、結びには、この構想を実現するための推進体制の確立など、各種方策の必要性について述べられております。

この構想に基づきまして、札幌市としましては、生涯学習関連施策を総合的かつ体系的に推進する体制として、さきに御説明しております生涯学習総合推進本部を平成８年４月に設置し、また、生涯学習推進に向けた組織機構の検討の結果として、平成10年４月に「社会教育部」を「生涯学習部」に組織変更いたしました。

平成12年８月25日には、本市の生涯学習を総合的に推進する中核施設として、西区宮の沢に札幌市生涯学習総合センターがオープンし、現在「ちえりあ」の愛称で市民の皆様に親しまれているところです。

また、この「ちえりあ」で、高度で継続的かつ体系的な学習機会を提供する「さっぽろ市民カレッジ」を同時期に開設し、「市民活動系」「産業・ビジネス系」「文化・教養系」の３分野から編成された市民の多様な学習ニーズに対応した講座を提供しております。

以上のような流れで、札幌市生涯学習施策を推進しておりましたが、ここ数年来、国におきましては、時代の変化の中、生涯学習にかかわるさまざまな提言がなされております。

再び、左側の国・北海道の動向をごらんください。

平成15年３月の中教審の答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画のあり方について」では、少子高齢化社会の進行など社会の大きな変化の潮流を踏まえ、日本の教育を新しい時代にふさわしいものにすることの必要性や、教育の基本理念としての生涯学習の明確化、家庭教育の支援、社会教育の振興の重要性が提言されました。

それを踏まえ、中教審生涯学習分科会が平成16年３月に、生涯学習の振興方策に関する審議経過の報告を提出しました。資料の左側の方に抜粋しておりますが、その中で、生涯学習を振興していく上で今後特に重点的に取り組む分野としまして、一番下の方の抜粋になりますけれども、「職業能力の向上」「家庭教育への支援」「地域の教育力の向上」「健康対策等高齢者への対応」「地域課題の解決」の５点を指摘しております。

北海道につきましては、この審議経過の報告を踏まえつつ、ことしの２月に第２次北海

道生涯学習推進基本構想を策定したところです。

このような流れを受け、ことしの６月13日、文部科学大臣が中教審に「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」諮問を行いました。現在、中教審生涯学習分科会の内部委員会として、「国民の学習活動の促進に関する特別委員会」と「家庭・地域の教育力の向上に関する特別委員会」が設けられ、それぞれの課題について審議を行っているところです。

今回の諮問では、フリーターやニートの増加、家庭や地域社会における教育力の低下、少子高齢化の進行など、さまざまな社会状況が指摘されているところですが、札幌市の現状につきましては、次の検討会議の議題として御提案し、皆様方からの御意見をいただきたいと考えております。

最後に、資料８としまして、先日実施しました市政世論調査の結果につきまして、若干の御説明をいたします。

本年７月から８月にかけて、市民の声を聞く課で実施した調査の中で、本年度のテーマとして、スポーツへの取り組みとともに、生涯学習について計12項目のアンケートを実施しました。

この中で生涯学習を行っている市民の65.7％が「満足している」と回答している一方で、41.4％の市民が生涯学習活動を行っておらず、その中の55.6％の市民が「時間的に余裕がない」ということを理由にしております。

これらのアンケート結果の分析を初め、現在の生涯学習推進構想に記載された事柄の状況等につきましては、次回の検討会議の場で構想の現状、市内の生涯学習関連施策の状況、行政以外の担い手の状況等とあわせて報告、協議し、そこから浮かび上がる課題と今後の方向性についての御意見をいただければと考えております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

○座長　どうもありがとうございました。

ただいま札幌市の生涯学習の現状につきまして、国や道の施策、それと市の動きを絡めた、大変見やすい表をもとに御説明いただきました。この件に関しまして、何か御意見あるいは御質問ございませんか。

ただいまの御説明は、どちらかというと概略的な御説明でございました。細部にわたっては、また次回ということでございますけれども、現時点でただいまの御説明の範囲内での御意見、あるいは御質問等どうぞ。できるだけたくさんの御意見を賜って、この会を活性化させたいのですね。ひとつよろしくお願いいたします。

どうぞ。

○副座長　この10年の間の一つの大きなことは、札幌市の生涯学習の推進本部ができたということと、それから、そのもとに幹事会が置かれたわけですけれど、この10年の間にその推進本部と幹事会というのは、具体的にはどういう動きをしてきたのかというのを少し簡単にお話ししていただけると……。

○事務局　最初から非常に厳しいお話なのですけれども、札幌市の機構としまして、先ほどちらっと触れましたけれども、社会教育という考えから生涯学習ということで、組織体制も生涯学習部という名称に変わっております。ただ、その一方で、生涯学習の主要な分野といいますか、わかりやすい分野として、文化とかスポーツとかというものがありますけれども、それは逆に教育委員会、社会教育から離れまして、市長部局の方に組織がえになっております。前回の推進構想に基づいて、札幌市全体としての生涯学習施策を進めていく上で、そういった部門間といいますか、組織間の連携をとっていくというのが非常に必要になってくるということがありますので、そういったことを意識する体制としての推進本部、幹事会の位置づけを考えていかなければならないのだと思います。

ただ、現実は、体系的に沿った形で事業展開をするということを日常的に協議するという、時間的な余裕といいますか、手続的な面でもちょっと難しい部分がありまして、個別の施策ごとに連携をするというふうな動き方で来ております。ですから、推進本部として所管の副市長を座長として、局長職が集まって協議をするというような場というのはほとんどなかったというのが現実でございます。ただ、それによりましては、予算編成その他折々に、関連するところでの情報提供、情報交換をしながら、推進構想に沿った形での施策展開ができるような、実務レベルでの連携はしてきているというふうには思っております。

ですから、この10年間の活動、この組織体制の活動総括ということであれば、記録に残るような形で、いついつこういうことをやって、何年には何回やったとかということについては、ちょっとお示しできないような状況で申しわけないのですけれども、形よりも実務というふうな視点で取り組んできたということで御理解いただければと思います。

○副座長　ですから、そういうことであれば、基本的には生涯学習というのは、教育委員会が事務局にはなるけれども、全庁的な連携をしながら総合的に取り組むということが大事なので、ワーキンググループがつくられて、矢印がこういうふうに書いてあるのですけれども、この新しい推進構想の中でワーキンググループの組織をしながら、そこで生涯学習についての理解を札幌市の市長部局の方たちにきちんと理解していただくという、だから、策定のプロセスの中での取り組みというのは、すごく大事になるのではないかなというふうに思います。

○座長　そういう方向性の可能性といいますかね、実際にどうなのでしょう。ワーキンググループのようなものが実際につくられるかどうかね。

○事務局　この推進本部、幹事会というのは、庁内のオーソライズ機関みたいな役割を一つ持っています。今お話にありましたように、実務的な部分で効果的な事業連携をしながら、推進構想の考え方に沿った事業展開をしていく、そのためのやりとりの場としてはワーキンググループになりますので、それはテーマテーマに応じて、弾力的にやっていく、基本的にはそういう考え方で今おります。

○座長　わかりました。せっかくあるものですから、そこに魂を入れるということですよ

ね、先生おっしゃったのはですね。ひとつよろしくお願いします。

ほかに何かございませんか。

○委員　済みません。ちょっとあっちこっち飛んで申しわけないですけれど、10月に構想を策定しますよね。来年度の。それが実際、政策に反映されて、予算がついて動き出すという、そういう流れですよね。ということは、19年度から動き出すということになるのですか。

○事務局　10月という時期を想定していますのは、成案としてまとまるのは10月ですけれども、そこに至るまでの議論の過程で今いろいろ要素が出てきています。ですから、それぞれ事業部局の中で、10月というのは予算編成に向けて動き出す時期ですので、そういった議論の過程を踏まえて、19年度の予算に反映すべきもの、あるいは19年度すぐは無理ですけれども、その先、選挙の話がありますので、具体的な枠組みについてどこまでというのは、この段階でちょっと確定させるということにならないのですけれども、計画的な要素として織り込むものと、19年度予算に即時織り込むべきもの、そういったことをある程度イメージした形で来年度10月という時期を考えております。

○委員　10年を見て、これは再来年は無理だけれども、その次ぐらいに着手してとかというような構想というか、大きな考え方の中で進むという。

○事務局　ですから、事柄的にすぐ事業展開できるということで、予算枠なんかもできるようなものがあれば、考え方として整理をして、この方向性で具体化を進めていくのだというような整理をしていただいたものについては、２年とか３年とかのスパンの中で、具体化に向けた手順もある程度のところ、そういう要素、いろいろな要素の中での組み立てがあると思います。

○委員　一遍に同時ということではなくてということですね。

○座長　ありがとうございました。ほかにございませんか。

どうぞ。

○委員　今のお話でちょっと、関連しているのですけれども、そうすると、短期計画と中長期計画を両方策定するということなのでしょうか。並行して行うということなのでしょうか。

○事務局　構想という考え方ですので、ある程度イメージ的なものを中心に整理していく、体系的に整理していくというのが一つあるかと思います。その体系に沿った形で具体的な事業展開をどうしていくのか、アクションプランというような位置づけになるかと思いますけれども、その部分を今委員がお話しいただいたような形で、すぐできるものと少し期間を置きながら整理していかなければならないものと、その両方の要素というのは考えていかなければならないと思います。ですから、構想の中に個別の具体的な事業も全部織り込んでいくとなると、かなり細かなものになっていきますので、構想というものとアクションプランというもの、これを並行しながら進めていく取り組み、まとめていくというふうなやり方を考えております。

○事務局　現在の生涯学習推進構想も、構想という考え方、理念的なことある中に、施策といいますか、個々の事業についてもかなり盛り込んであります。今回の構想の中で、その事業の盛り込み方を、例えばアクションプランということで別に何かつくるのか、こういう構想の中に個別に盛り込んでいくのか、そこら辺も含めてどういうつくり方がいいのかも、その辺の御意見をいただきながらというふうに考えております。

○座長　ただいま大変大事なことですね。全体の中の一部にアクションプランを入れるか、あるいは並行的にいくかということですけれど、この辺ちょっと自由な御答弁。

　実際には、全体をつくって、その中でできるものがアクションプランになるのではないかと私個人は考えますけれどもね。ちょっと御意見いただけませんか。

○委員　10年スパン、長いですよね、結構ね。今、10年スパンで物見て、10年後どうなっているかというのは、なかなかわかりにくい時代ですよね。そのあたりがやはり。やっぱり10年として見ていくというふうに書いてありますけれど。

○事務局　構想という位置づけで考えたときに、体系立てた理念的なものですね。それは毎年毎年変わるとかというものではないというふうに思いますので、そういった考え方で整理すべき範囲として、向こう10年ぐらいを一応織り込んでいきたい。ただ、具体的に条件に応じた施策ということになりますと、今おっしゃったように来年のことも従来の動き方ですので、その辺は札幌市の今新まち計画３年間という形でやっていますけれども、そういったスパンで具体化していくものだろうというふうな考え方になろうかなと。

○委員　逆にそういうふうに短いスパンということで……。

○座長　実際には10年前のその構想もこれからの構想も、理念的には余り変わらないと思うのですね。ですから、むしろこのアクションプランが変わっているのではないでしょうかね。時代時代に応じて。

○副座長　いいですか。

○座長　はい、どうぞ。

○副座長　私、10年前にかかわったという責任もあり、それから社会教育委員も５年になりましたので、生涯学習推進構想の一つの大きな問題は、その10年間で、その途中でそれがどれだけ実現されたのかということを、市民も参加して議論するということは、実際にはほとんど十分に行ってこなかったというふうに思うのですね。ですから、市民主体の生涯学習のあり方を考えるという点について言うと、そういう構想をつくったけれども、構想を実際に実現していくということについて、どういう形で市民の意見を聞きながらやっていくかという、その一つは、意見を聞きながらやっていくというその仕組みのことをどういうふうに考えるのかということが一つの大事な問題になるのではないかなということが一つです。もう一つは、この10年の間に、構想ですから、一つの政策なわけですから、政策評価という考え方が格段に進みましたので、そこら辺の少なくとも10年後にこれをどういう形で評価することができるのかということをやっぱり念頭に置いた上での構想づくりという、その中に多分アクションプランとか、中期計画とか、そういうものがあるのか

なと思いますけれど、そういう考え方が大事なのではないかなというふうに思います。

○座長　ありがとうございました。

　要は、今までは構想があったけれども、それを検証するあれがなかったと。今後、例えば市民のどなたかにも参加していただいた上での検証が必要だということですけれどもね。これ先生、具体的に例えば、もうちょっと具体的にアイディアを……。

○副座長　社会教育委員の責任もあって、社会教育委員の会合の中でそれがきちんと行われるということも必要かもしれませんし、検討会議というものができて、構想はつくったけれど、その後はどうするのかという、そこら辺のそういうような、いわゆる住民参加でそれを検証していくようなあり方を、計画の中でそれは構想の中でそういうことも含めて検討するということではないかなと思います。

○座長　なるほどね。結局、今、もうエビデンスがないと、構想は打ち上げた、しかし、何やったか証拠が残らないということでは、市民の賛意を得ることはできませんので、そういうのも一つのテーマに入れて取り組んでいくべきだろうと考えますね。これテーマに取り上げましょうね。それを入れていくと。

　ほかに何か御意見ございませんか。

　はい、どうぞ。

○委員　質問なのですけれども、これから考えていく上での私自身の心構えというのでしょうか、何をどういう視点で考えていけばいいのかということを教えていただきたいのですけれど、この10年で少子高齢化が大分進むと思うのですけれども、具体的に、10年前と今と10年後と、この札幌市全体の、例えば世代間の人口の差というのでしょうか、それで想像し、変えていかなければいけないと。課題というのはどういうところなのでしょうか。教えていただけますでしょうか。

○事務局　私が答えられるような問題ではないかもしれませんけれども、いろいろな計画といいますか、物を検討していく上での基本になる条件といいますか、状況把握ということになろうかなと思います。札幌市の全体の計画のベースになっている長期総合計画というのがありますけれども、そこではそういった基本的な条件につきまして、推計値を出して、それに基づいたまちづくりをしていく、ハードの面も含めた考え方、それに基づいて整理していくというのものはありますので、それは御提示できるかなと思います。ただ、それをどう分析するか、どう評価するかということになりますと、かなり難しい。こういう条件、こういう条件になりますというふうに、５年後、10年後、先ほどの委員の話ではないですけれども、来年もというような時代ですので、大きなトレンドとしてはこういうふうな形になるだろう、その結果、10年後はこういうふうな形の数字になる、世代だとか、そういったものを含めたものはありますので、それは御提示できますけれども、どう分析、したがって、それをどういう方向にすべきなのか、施策としてすべきなのかということになると、我々の部署だけではということよりは、むしろ企画調整機能の中で、市としての考え方を整理していくというふうな分野になろうかなというふうに思います。

○座長　よろしゅうございますか。今のお答えで。

　スタート時点では、よく理解できないことであっても、回を重ねていくうちにやっぱりわかってくるところたくさんあると思いますので、これ私の経験から言っていますので……。

○委員　勉強させていただきます。

○座長　ええ、お互いに勉強ということでございますけれども、とりあえずよろしゅうございますかね。

○委員　はい。

○事務局　そういった形での資料の要求がございましたら、言っていただければ、準備するようにいたしますので。

○座長　ありがとうございました。

　ほかに何かございませんか。

○委員　よろしいですか。

○座長　どうぞ。

○委員　ちょっと御質問させていただきたいのですが、今、前にお座りになっている事務局ということですけれども、別に組織図上、ワーキンググループというのがございますね。ワーキンググループは、関係課長、関係係長さんということなのですけれども、事務局とワーキンググループとの関係、それから、ワーキンググループのメンバーさん、その辺を具体的にちょっと教えていただければ。それとワーキンググループから今度この会議、この検討会議に、例えば何らかの資料提供とかあるかと思うのですけれども、そういった流れといいますか、もうちょっと詳しくお聞かせ願えればと思うのですが。

○事務局　先日、庁内会議として幹事会を行いまして、ワーキングに入るべき分野のメンバーを一たん確認をさせてもらっています。ただ、固定的なメンバーというよりは、事柄によって少し弾力的にやっていこうということにしていますので、そのメンバー表については、今、ちょっと御準備してお渡ししようかなと思います。

○事務局　先ほど御説明させていただいたこの組織図で幹事会というところで、各部長さんの名前がたくさん出ておりまして、大体このラインで、ここにつながっていく課長さん、係長さんが入るような形でつくっております。ただ、生涯学習といいますと、ここに出ているメンバー以外にもまだまだ広いのですけれども、実態としてかかわりの深い各セクションの方に入ってもらいながら、内容で広がりが出てきたときには、その部局にもまたその都度入ってもらうという柔軟な形で考えておりまして、今のところ、ワーキンググループでいきますと、課長さんが27名、係長さんが28名というぐらいで考えてはおりますけれども、この方たちが全部集まって会議するなんていうのはなかなか日程的には難しいことがございますので、そのテーマごとに必要に応じて出席していただいて、内容の広い意見をもらいながら策定作業を進めていきたいというような考えでおります。

○座長　はい、どうぞ。

○委員　そうしますと、ワーキンググループがたくさんできるというわけではなくて、その内容に応じて担当の方に出席いただいて検討いただくということですか。

○事務局　ワーキンググループそのものは、一つの組織ではあるのですけれども、この日程を見たとおり、非常にタイトなスケジュールでやらなければならないということもありまして、事務局はかなり作業をしなければならないだろうなというふうに思っています。それで、会議できなくても、それぞれの関係の部局に私どもの方で歩いてでも、いろいろ意見もらったりなんかして、調整して、会議をやるときにはかなりまとまった形を提示するような形で進めていきたいなと思っているものですから、そういう中でこのワーキンググループのたくさんの部局の方に、関係のときにはそこのところといろいろ調整しながら案をつくっていくという形で考えております。

○座長　よろしゅうございますか。

ほかに何か。関連事項でなくても、何でも結構です。何かございませんか。

特に公募枠の委員の方々、いかがでしょうか。

○委員　ちょっと長いスパンですごくびっくりしているのですけれども、10年前の構想をして、７年も構想があったということで、どうしてもその辺の見直しということで、また新たにこういう感じでやっていたら、来年、再来年、はたまた10年後ぐらいに何かができ上がるのかなという気持ちもちょっと持ちながらお話を伺っていたのですけれども、一つまたわからないことがあるので、質問させていただきたいのですが、今回の会議で生涯学習というものに対する全体的なことを話し合いを進めて、その都度必要であれば、先ほどの御指摘のあったメンバーの方ですね、資料２の方に上がっております、その方々にも来ていただいて、意見をいただくというような感じで私は受け取ったのですけれど、それで構わなかったでしょうか。

○事務局　進め方としましては、市の計画といいますか、構想としてつくりますので、主体的には、まず市としての責任を果たしていかなければならないというふうに思っています。その前に先ほど来お話あるように、教育委員会だけの範囲で処理できるものでありませんので、全庁的な視点での構想としての整理をしていかなければならない。関係部局の協力をもらいながら、事務局としては生涯学習が、というつくり方で今進めています。この検討会議の方に御提示するのも、白紙で、札幌市の生涯学習はどうあるべきかという、そういったところからのスタートというよりは、今現在の構想がありますので、これをベースにして、これを見直していくということで今回お願いしようと思っていますので、この見直すべき基本的な問題としては、まず行政サイドの方で、それぞれの所管する部局の意向も含めながら整理をさせていただきたいと思っています。その整理したものについて、この会議に御提示させていただいて、もっとこういうふうな視点を持つべきだとか、これはもう時代おくれだとか、そういったような御意見をいただきながらまとめていきたいというふうに思っています。ですから、具体的な御提示させていただく内容がまとまったときに、担当部局としての意見も聞きたいということであれば、そのセクションの担当

者の出席もこの場に求めていくということは可能だというふうに思っています。

○座長　ありがとうございました。

　実際のこの会議の要綱の第６条ですけれども、そこに検討を進めるに当たり必要があると座長が認めたときは、この会議にその関係者の出席を求めるという文言がございますので、それが今ので整合性がきちっとつくと思うのですね。

　ほかにございますか。

○委員　よろしいですか。

○座長　はい、どうぞ。

○委員　今の御説明だと、関係部署から最初にいろいろな案が出てくると。それでこちらの会議で、またそれに対していろいろ意見を加えるということですよね。そういう流れと、もう一つは、先ほど副議長がおっしゃったように、10年間今まで構想があったわけで、それの反省を踏まえて新しく言われたことだと思いますけれども、やっぱり評価の方法がなかったと。これからは評価の方法の仕組みづくりというのがぜひ必要だと。それは多分、各局からは来ないことですから、こちらの方から新たにそういうものをつくってほしいという提示をすることは可能。それはつくっていただく。そういうことで。

○事務局　きょうの席もそうですけれども、今いただいたような御意見も含めて、事務局として、それは庁内にフィードバックしていきますので、それを踏まえた形でのやりとりができると思っています。それから、評価の問題につきましては、今、札幌市全体として、事業評価の取り組み、不十分だということも含めて御指摘はありますけれども、ことしについては、政策評価ということで、外部の方、外部意見を含めた判断をしていただくというふうな取り組みにしていますので、全市的なそういう動きと、この生涯学習推進構想というものに位置づけられた施策の進捗状況といいますか、取り組み成果といいますか、その一つの部分といいますか、専門的な視点でそれを評価するというものと、そこら辺の兼ね合いはどうするのか、そういったようなことについても御議論いただいて、御意見いただければと思います。

○座長　そうですね。続いて、どうぞ。

○委員　続けて、そのことについてなのですけれども、重要なところは、多分構想自体は10年前とそれほどの大きな抜本的な、理念的な変革というのはないと思うのですね。だから私は、多分この１年間のやるべきことは、評価のシステムづくりということが大きなテーマになるのではないかなというふうに思っています。そのためには、先ほど委員も御指摘なさったことですけれども、10年という大きなタームと、それか、私はやっぱり中長期というところで、３年とか５年とか、そういうものもはっきりと策定して決めて、その中でアクションプランというものを具体的に決めていって、そして、それごとに評価するというような、もうちょっと緻密な生涯学習推進のための計画づくりと、そういうものをこの10年でやっていくという方向性も、この会議では考えていったらいいのではないかなというふうに、先ほどの意見の延長線上での私の意見ですけれども、そういうふうに考え

ております。

○座長　全体の枠をきちっと決めてできるものからという方法と、今のお二人の委員のおっしゃったように、短期、中期、長期と分けて、確かに二つの考え方があるのですがね。やっぱりどちらに偏っても非常にやりづらくなると思うのですよ。そこのところはやっぱり現実を踏まえながら、これは長期のものだ、これは中期だと、固定させないで、多少はそのあたり、いい意味でのファジイにしておいて、できるものからやっていく方が現実的だろうと、私個人として考えますがね。そのあたりちょっと御意見あれば、どうぞ。

○委員　私も、先ほど事務局が10年前の構想をたたき台にして案を出すということですが、それは必要だと思うのですね。やっぱり検証して、今後10年の全体像をつくって、その中で個々にアクションプランを立てていけばいいのではないかと思います。

○座長　どうです、御意見。御自由に。

○委員　多分検証ということの中に入ってくるのかもしれませんけれども、僕らもよくいろいろな会議で言われるのですけれど、例えば社会環境が変化したとか、社会が変化したと言いますけれど、何がどう変化したのだというふうに押さえているのかと。変化の内容ですよね。というあたりも出していただけると、いや、そうじゃないんじゃないかとか、そのとおりだとかということによって、変化を我々が共有をして、それにのっとった方向性というのが出てくるような気がするのですね。何となく変化変化と言うと、それぞれが納得して、うん、変化している変化していると言っているのですけれど、何か変化の内容がそれぞれ思っている方が違っていたりなんかすることもあると思いますので、市として、この10年間の変化をこういうふうに見ていますと。いろいろあると思うのですね。少子化とか、人口動態とか、社会が変わった、政治が変わったとか、いろいろなことがあると思いますけれど、そのあたりを基本的なものとして出していただいて、我々が共有できると、すごくいい方向性というのがより確実に出てくるのかななんていうふうに思ったり。

○座長　ありがとうございました。

○委員　私も役所勤めといいますか、そういうので大体事情はわかるのですけれども、やはりきちっと具体化できる短期案と、あとは大きなスパンの構想で中長期案というのを別個につくらないと、中長期というか、大きな構想の中でできるところから始めるという、ちょっとファジイな感じですと、その都度、今回は予算がないからできないとか、ほかの優先すべきことがあるからできないとかという、なかなかそうやってあいまいになって、また10年きっと経過してしまうと思うのですね。そういう意味では、やはりある程度の具体案というのを、僕も公募枠で入りましたので、市民に提示していかないと、３年間でここまでやるとか、最初の２年間ではここまでやるというのを具体化して提示していかないとなかなか、構想をつくった後の実際の業務として走らないのではないかなという不安があります。

○座長　確かに一つの考えですね。確かに区切ると、検証は非常に簡単になりますよね。何年でこれといったもの。それやったかどうかでもうイエスかノーが出ますのでね。よくわかります。ただ、実効的にどうでしょう。もうちょっと御意見いただけませんか。

どうぞ。

○委員　私今回、突然思いかけず、このような席に入れていただいて、生涯学習というのも実ははっきり考えたことがなかったのですね。今、皆さんのお話を伺っていて、それから、職を打診いただいてから、生涯学習って何だろうとずっと考えてきたのですが、一度整理が必要なのではないかなというふうに思います。生涯学習というものをずっと考えてきた方たちにとっては、生涯学習とは何か、その定義。だれに向けたものなのか。非常に幅広いですよね。生まれたときから死ぬまで多分生涯学習というのは大切な部分で。ただ、その時期その時期の生涯学習、だれに対して、どんなことを、そしてみんなが思っている生涯学習とは、多分ここにいらっしゃる委員の方一人一人が違うのではないかと思います。私にとっては、私、ビジネスというのは、学び以外の何物からも生まれないという理念を持っていて、それは世の中の経営者は皆同じだと思うのですね。だから、世の中の経営者にとっての生涯学習というのは、ビジネスに直結するものであり、また、インターシップで高校に行ってお話をさせていただいたりするのですけれども、彼らは、今の企業の現状というものを分析しながらお話しすると、目を輝かせて、最初こんななっていたのが、きちっと最後聞いてくれて、楽しみになったと言ってくれる人もいるのです。そういう人たちに向けての生涯学習。そして、やっぱり小学校、幼稚園から、そういう、さっきフリーター、ニートという話がありましたけれども、そういう学ぶ意欲、働く意欲というものを植えつけていく生涯学習もあるでしょうし、果たして構想というものはどういうふうにされていくのか、ちょっと私には漠然としているのですけれども、そういうところの整理を一度、私自身としては、もしできたならば、すごく次にアクションプラン、何をすればいいのか、だれに向けて、いつ、それは一本の線だと思うのですけれども、それが見えてくるのかな。今お話伺っていても、自分としてどこをターゲットに考えて、何をポイントに考えていけばいいのか、まだもやもやしているのですね。そのあたりを時間をもしいただけるのでしたら、やっていただけたらいいのではないかなというふうに今感じております。

○座長　生涯学習というのは、実際これ、とりとめがないぐらい幅広くて、何かやって、それは自分のためになったとすれば、それはもう学習なのですよ。ですからもう、10人いれば十の生涯学習があるのですね。このあたり事務局から何か、何か御説明いただけます？

○事務局　そういうようなと言ったら変ですけれども、体系的な整理とかということになると、副座長にお願いするのが一番いいのかなと思うのですけれども。今、お話にありましたように、行政の方のとらえ方としても、役所全体でいろいろな問題が起きたときに、この所管はどこなのだ、生涯学習に関連するからおまえのところだと言われるケースが非

常に多い。ただ、具体的にそれに対する施策責任といいますか、そういった権限というのが、逆に生涯学習にないのも生涯学習という組織の中になっています。ですから、元の話にありましたけれども、役所全体としてその分をどう体系づけていくのか、どうネットワークを組んでいくのかというのが我々の役割だというふうに思っているのですけれども、今、委員おっしゃられたような部分を、生涯学習というくくりの中でどう整理するのか、それが一つ体系づけるという役割だと思います。それから、一つ一つのテーマ、例えば、今地域の教育力みたいなこと、あるいは子どもの安全みたいな形で地域活動をどうするのかというのも一つのテーマになってきて、この地域活動というとらえ方のテーマとしての持ち方もありますし、地域の教育力みたいなことと絡めて生涯学習という分野のテーマだというとらえ方もあります。それを実際に行政の枠組みの中で、どう影響力を持ちながらやっていくかとなると、これは市長部局の地域振興部、あるいは区みたいなところと具体的な連携をとって展開していかなければならない、そういった仕組みづくりみたいなことも中には織り込んでいかなければならないというふうに思っています。

ですから、理論上の生涯学習とはという部分でまず共通した認識をということになると、ちょっとお時間とって副座長にレクチャーをしていただくのが一番いいかなと思いますけれども、あと、構想体系を我々としてこう考えていきたい、それは行政の施策との関連でこういう形にしていきたいというふうなつくりの中でもそういったことを意識した形で御提示させていただいて、その上でそれに対する御意見をいただければというふうに思います。

○座長　これはしかし、先生お一人にお任せするのは大変なもうお仕事ですから。

○副座長　いや、私一人というよりは、札幌市の中で取り組んできて、一定の生涯学習についての考え方を示してきた経過というのはありまして、例えば、もちろん10年前の生涯学習推進構想の中でも、生涯学習とは何かということが書かれていますけれども、市民カレッジを立ち上げるときに、私どもと札幌市の教育委員会と一緒に作業をして、そのときは、きょうは時間がないからちょっと簡単に言いますけれども、一つは、生活拡充共生型の生涯学習という言い方をして、これは生きがいとか仲間づくりのための学習で、主に今までの公民館、図書館だとか、博物館などを中心にしながら、社会教育の中で取り組まれていて、特に近年は、カルチャー産業などがそこでは進出しているという、それが一つで、もう一つは、継続享受型の生涯学習ということで、これは札幌市と私たちの整理の中では、公共的なリカレント学習と、それから職業的なリカレント学習という分け方をして、公共的なリカレント学習というのは、これはまちづくりのための職業にかかわるわけではないけれども、環境を守ったり、地域の中で高齢者の問題を考えたりするような、そういう学習のことを公共的リカレント学習というふうに分けて、それからもう一つは職業的リカレント学習という、委員が言われたような職業にかかわるような専門的な知識を高めたり、キャリアアップをするための学習というふうに分けて、例えば市民カレッジでは、それが文化・教養系と産業・ビジネス系と、それから市民活動系という今の分け方を

して、もちろん生涯学習ですから、これは社会教育だけではなくて、学校教育や家庭教育も含んでそういうことをするという、一応札幌市の具体的取り組みの中ではそういう具体的な考え方を、もちろんこれが全部ではないと思いますが、こういうことを基礎にしながら今まで、例えば市民カレッジなどはやってきたわけです。

○座長　今のお話聞いて、私も思い出しまして、三つの系でそれぞれの活動をされているというのを表で見たような気がしますので、確かありますよね。次回、それをちょっと資料の一つに添付していただけますか。今でも通用するかどうかは別として、非常にまとまった考え方ですね。それ、一つお願いいたします。

ほかに何かございませんか。

特に、検証問題は、これはこれからこの会議のテーマですけれども、短期・中期・長期をどうするかということで、ちょっと四、五分、討論いただけません。ここはやっぱり大切なところだと思うのですね。

○委員　短期・中期・長期ということは、結局は優先順位をつけるということだと思うのですね。この３年間では、いろいろな課題があるけれども、特にこの３年間はここを、予算も多分限られているでしょうし、そこら辺をコンセンサスをとっていくという。例えば資料７の方に、中教審の今後重点的に取り組むべき分野というので、職業能力、家庭教育とかいろいろ出ていますけれど、こんなような課題の部分を参考にしながら、では、その中でもそれぞれのテーマごとに緊急性のある、札幌市として短期に取り組みたいものは何なのか、長期的に取り組むものとしてはどういうものがあるのかと、そういうものを具体的に検討していくことになるのかなというふうに私はイメージしているのですけれども。

○座長　いや、私の意見は、まことにそのとおりだと思いますけれども、そのとおりきちっと予算ってつくものなのですか。それの保証がなければ、結局絵にかいたもちになるものですから。ですから、例えば５年先に振り返ったら、これもやっていた、あれもやっていたというのも一つの行き方でないかと見たら。結局何するにも予算がついてまわるので、それを無視してのビジョンは幾ら立派でも、私はやっぱり絵にかいたもちだろうと思うのですね。もうちょっと議論していただけます？

○委員　市民の立場から言いますと、資料８にアンケート調査というのが載っています。これで、アンケート調査でいろいろ書いているのですけれども、今後行いたい生涯学習の分野ですとか、健康・スポーツとかが多分一番大きい分野だと思うのです。こういうアンケートを聞いて、やはりある程度は具体的に、こういうことは今後やっていきたいとかというのを示さないと、何のためにアンケート調査を行ったのか、アンケートをとっておいて、10年たってできませんでしたというのでは、ちょっとなかなか厳しいものがあるのではという感じがします。

このアンケート調査というのは、多分、生涯学習部の方で今後これを活用していくということですよね。

○事務局　今回、この構想を策定していく経過の中で、市民の意見をどういう形で取り入

れていくかということで、いろいろな方式があると、この会議ももちろんそうですし。そういう中で、大きなとらえ方としてまず、アンケート調査というのは、今の市民意識がどういう状況にあるのか、そこを押さえてやらなければならないだろうと。そのほかにパブリックコメント、でき上がったものに対して具体的に意見をもらう場ですとか、あるいはフォーラムみたいな形で、意見をもらえる方はそんなに多くはないかもしれないけれど、みんなで共有してその場で考えられる場とか、いろいろ考えていった中の一つとしてまず、一番とっかかりのときの押さえとしてこのアンケート調査ということで、今の現状が、市民がどういう意識を持っているのかということから入っていきたいなということでこのアンケート、これは私どもの方から広報課の方に言ってやってもらったものなのですけれども、そういう位置づけでまずこの世論調査があるというふうにお考えいただければと思います。

○委員　予備調査ということでとらえていいわけですね。

○事務局　今までこういったアンケート調査というもののその結果を、行政施策にどう反映するのか。ニーズとしてこういうニーズがありますよ、したがってこういう事業をやりますよ、非常にわかりやすいつながりをつくった、そういう使い方というのは主な形だとかと思うのですけれども、必ずしもそういうことばかりではなしに、例えば、文化・スポーツのニーズが非常に高いというアンケート結果が出たとしても、これが行政がやるべきだとして考えるべきなのかどうなのか。民間のカルチャーセンター等々でその分野というものは充足されている。教室なり何なりの数が足りなくてもっとということがある、あるいは、そういった機会に行く、物理的なハードルがあって行けないという人、そういう人たちにどう提供するのか。それは行政として考えなければならない部分とかというのは出てくるかと思うのですけれども、そういう材料として使っていくという考え方をしたいと思っています。

○座長　どうぞ。

○委員　私も小学校で、学校教育が担当すべきことってあると思うのですよね。だけれども、今話題になっているような安全確保の問題というのは学校だけではできないわけで、つまりメッセージ性として、こういうことをみんなでやっていきましょうよと、そういう僕はこういう論議の中に、市民に訴えるメッセージ性というのは大事だと思うのですよね。それがどこでどうできるのか、今予算の問題がありましたけれども、それは裏切られることがあるかもしれません。それはそれとして、市民の方々に、札幌市としてはこういうふうなことをこうしていきたいんだという主張が、僕はまずは大事だと思うのですよね。その中で、長期・短期ということがありましたけれども、それはやはり、僕はどうしても市民の方々というのは、それを具体的にどうするかというのはやっぱりみんな求めているのだろうと思うのですよ。それは全部ができるかできないかというふうな論議ではなくて、やはり今、こういうふうなことが現実的に大事なのだというふうなことの中で共通理解していくと。そんなような手順として考えていかなければ、この問題は解決しないの

ではないかなという気がするのですね。私たちは問題解決するときに、では、予算はどうなのか、それはだれがやってくれるんだというふうな言い方をしますけれども、生涯学習の問題というのは、我々の問題としてとらえて、そういうところからスタートしなければ、これは知恵が出し合えないのではないかなという気が私はします。

○座長　もっともな意見ですよね。ただ、先ほど来、検証ということもテーマになってきているものですから、そのあたりとの兼ね合いで。ただ、方針はやっぱりきちっと出した方が、これはもう市民の皆さんわかりやすいでしょうね。

○委員　ちょっと私、検証するといったときには、それができなかった、できたではなくて、それを次にどのようにして生かせるかという、そういう具体的な方法として検証すると。次の可能性に導くような、そんなふうな検証の仕方というのは、私はこういうふうな生涯学習の場合には、検証の仕方のあり方として大事ではないかなという気がするのですけれども。だから、私も検証は大事だと思います。

○座長　このテーマに関して、もう少し御意見いただけませんか。

○委員　私さっきちょっと指摘したのですけれど、やっぱり理想というか、こうあるべきというのを必ず短期・中期・長期立てるべきだと思うのですね。予算というのは確かに、札幌市さんは予算が厳しいというのは分かっておりますし、それはどうしてもついてくる問題だと思うのですけれど、やり方を考えることはできると思うのですよ。ネットワークという言葉がありましたけれども、企業と大学、行政、連携してやっていく。それによって予算がたくさんなくてもできることというのは絶対あります。今かかわっているプロジェクトで、大学と、それから企業、大企業、それとうちのような中小企業と連携しながら、子どもたちの英語でロボット教育をしようというのを今やっているのですね。非常に子どもたちは生き生きと、一日朝10時から３時まで、一度もだれもあくび一つせずに、英語でロボットの組み立て方を習いながらやっているのですが、非常に少ない予算です。でも、それは大学の先生、企業間、行政が連携してやっていると。そういうようなやり方を、やり方を考えることもそのアクションプランの一つの働きだと思うのですよ。だから、予算がないからできませんねというのはすごく寂しい話なので、やっぱりこれはやりたい、このためにはこういうことをやったらどうか、そのやり方はどうなのかというところまでもし検討できるのであれば、非常に有意義なものになるのかなというふうに……。

○委員　本当にそれ、委員の考えに賛成です。そのときに、ぜひ入れていただきたいのは、ボランティアをやっています、本当に企業にも属さない、学校にも属していないような者たちがおりますので、どうぞ予算がないなどとおっしゃらずに、こういうような方向に持っていきたいということで出しまして、そのときに、どこの力を使って、どういうふうにしたらそれが実現できるかということでやっていただけたらいいかなと思います。ぜひ、中期も短期も目標をつくってやっていきたいなと思います。

○委員　よろしいですか。

○座長　はい、どうぞ。

○委員　10年のスパンの中の短期を例えば３年とか５年というふうにやると思うのですけれど、その３年たってどうなのかという、そのときにどう検証するのかというのを、今後これからの会議で考えていけばいいということですよね。ただ、これだけの人間がそれぞれの意見を出し合った中で、やってよかったことと、非現実的だったですとか、では、そこをどうするのかという、本当に予算ありきで考えてしまったら、提示して待って、予算がおりるのってきっと１年ですよね。そこからというと多分士気も衰えていると思いますし、そんなこと言ったっけというような日々の忙しさの中で、テンションが多分トーンダウンしてしまうと思いますので、夢だとか、こうしたいというエネルギーの中から、どうぞお願いします、努力をしていただくと。努力したけれどだめだった。じゃ、どこまでいいですかと。これでどうやったらできるのですかというような、そんな前向きな意見が活性化されていくといいなということを私も思います。皆さんの意見を伺って本当にそう思いました。

○座長　はい、どうぞ。

○委員　評価をするということは、検証であることはないと思うのですけれど、評価は必要だと思うのですね。僕、生涯学習という観点から市民のことを考えたときに、僕はやっぱり根っこに考えなければならないもの、一市民として考えたときに、与えられたもの、用意されたもの、そういうところに行く意識から、やっぱり自分から意識改革して、そういうところに行きながら学ぶとか、それから、健康を保つためにどうするとか、そういう意識に変えてもらうようなことをするのが一番この会議の大事なところでないかと僕は思っているのですよ。だから、幾ら金をもらって、こういうものをつくりました、こういう時間をつくりましたといっても、決してそれはプラスにならない。やはりそういう意識、自分から参加して、自分から求めていくような意識をどう私たちがつくり上げていくのかというところをやっぱり一番論議していかなければならないのだろうな。あとアクションプランというのは、先ほど座長さんが言いましたように、10人いたら10人のプランをつくっていかなければならないことあるけれど、そういうことではないような気がしているのですね。ですから、10年間というのはもう社会変わりますから、大体そんなものを予想できる人、僕はだれもいないと思うのですよ。極端なことを言えば。その都度その都度見直し、つまり評価をして、次にどうつなげていくかということはやっていかなければならない。だけれども、10年間を通して柱となるものはきちっとつくっておかなければならない。そのときに応じた枝葉になる、柱があって、小さな柱をやっぱりつくっていく必要はあるだろうなと。これは金があるとか金がない、金がなければ知恵を出して、どういうプランを練っていくのか、具体的にどういうのをやっていくかというのをやらなければならない。これは金が絶対必要だというものは、札幌市金出さないと僕だめだと思うのですね。僕はね。必要なところはやっぱり金出すと。でも、ここの部分については知恵を出すと。知恵とお金をミックスしてやるという、ミックスと言ったら変ですけれども、そういう発想で構想を練ったり、アクションプランをつくったり、評価をして、そしてそうい

うものが必要でないかなというふうに僕は思う。今の話とちょっとずれるかもしれない。

○座長　よろしゅうございますか。どうぞ。

○委員　生涯学習と一口に言うと、なかなか、先ほどおっしゃったように10人いれば10人、それに対する認識というのは違うというお話ありましたけれども、まさしく、物すごく幅広いと思うのですよね。別に行政が必ずしも関与しなければならないということではない。当然民間レベルでかなりなされているわけですよね。そういうことに対して、では行政がどういう形で何らかのアプローチをしていくかということになれば、いろいろ当然予算つけて、施設拡充とかあるかもしれませんけれども、そういった例えば民間に対するサポートだとか、情報提供だとかね。というのは、いろいろな何というのでしょう、施策というのは考えられると思うのですよね。ですから、僕は例えば、行政がどうあるべきかとかそういうことの議論というよりも、もっと何というのでしょうね、もっと広い意味での構想ということがあっていいのではないのかというふうに思うのですね。何というのでしょうね、ですから、余り予算云々というのは、余りこの会議の中で考えなくてもいいのではないか。あとはもうそれは行政さんに、ここで逆にお任せするしかないのかなと、そんなふうな気がします。

○委員　トータルにどう考えて、札幌市の行政としてそれをどうとらえて、どういうプライオリティーをつけてこのことをやっていくのだというのが出るのが一番いいのですよね。そのプライオリティーに沿って多分予算をつける。それは予算つけるのは我々は余りあずかり知らぬところですけれど、というようなことになるのかなと思うのですよね。だから、それは副座長おっしゃったように、そういう多分流れでおやりになってきたと思うのですね。だから、それが今度やっぱりどっちの方に向かって流れていくのかという、仮説を立てるということでしょう。構想を練ること、そうですよね。

○座長　そうですよね。

今について。

○副座長　いや、私、最初に申し上げて、自分の意見を戻すような形になってしまうのだけれど、すごく短い期間の中でつくらなければいけないですよね。だから、やっぱり札幌市の生涯学習がどうあるべきかという議論は、やっぱり大いにやらなければいけないので、そういう意味では、そういう議論に基づいた推進構想ということになるのだけれども、しかし、この10年の間に、例えば政策評価だとか、市民参加だとか、協働だとか、情報共有というような考え方が大きく進んだので、やっぱり構想自体も少なくとも10年たったときに、どれだけそれが実現されたのかということができるだけわかりやすいようなものにしなければいけないということはあります。それは間違いなくあるというわけですよね。それも市町村によって多分いろいろな取り組み方があるのですけれども、それに基づいて、それがどれだけ具体的に実現していくのかというような、例えば予算もつけたような計画は、当然行政の側でしなければいけないのですけれども、少なくともそういうことをきちんとどれだけ進んだのかということをちゃんと、やっぱり市民の目でもう一度いつ

も見ていくような仕組みの中で進めていくというようなことが構想自体の中に含んでいなければいけないので、それをどういうふうに進めていくのかということも含めて、構想の中で考えるべきではないでしょうかというのが最初の意見なのですね。それで、多分、もちろんこの短い期間の中では、全部予算がついたところまではできないのではないかなと思うのですね。ただ、行政の責任としてはそれを受けて、それをどう具体化していくのかという責任がありますので、そういうことをやっぱり検証していくような市民のかかわり方について、構想の中にちゃんと盛り込むということが必要だということです。最初に申し上げたことは。

○座長　ありがとうございました。

まだこの問題、非常に大切で、まだまだ御意見ありそうなのですが、これをこの場で結論を出すことでもございませんので、次回の会議でもちょっとこのあたり、皆さんまたお帰りになって、それぞれに整理されて、そしてまた御意見いただくということにしたいと思うのですが、いかがでしょう。よろしゅうございますか。特に短期・中期・長期の問題だとか、検証の問題だとか、そのあたり、きょうの核心部分でしたから、それを次回もう一回議題とさせていただきます。

それで、あと30分ほどございますけれども、きょうは初回の会合ということで、名前は私わかりましたけれど、皆さんもそうでしょうけれども、例えば生涯学習についての考え方なんていうのは、お互い全然知らないわけですから、どうでしょう、このあたりでお一人一、二分でしょうかね、例えば生涯学習に対する、実践していればそのお話でもよろしゅうございますし、あるいは期待するところがあればそれでもよろしゅうございますし、あるいは今後こういうところに力を入れたいという興味があるところでもよろしゅうございます。何かお一人一、二分でちょっと御発言いただけませんかね。

時間がタイトでございますから、私のお隣の委員からお願いいたします。

○委員　私は、大学で技術職員をしておりまして、そこで職務の一環として、遠隔教育の研究をさせていただいています。遠隔教育は、主に高等教育分野の遠隔教育になりまして、eラーニングとかも、通信教育とかも含めたもので、もっと狭い範囲で言うと、それに対する費用対効果というのを研究テーマにしています。アンケート結果をさっきちょっと見たのですけれども、インターネットを利用した通信講座とかやってもらいたいという意見も多々ありましたので、その辺も市民の立場から、構想にちょっと入れていただければいいかなと思っています。

以上です。

○座長　ありがとうございました。

○委員　私、この３月に第２の職場が終わりまして、何か新しいことに挑戦していきたいと思いまして、この推進検討会議の委員に応募しました。運よく３名の中に選ばれましたが、この生涯学習に関しましては、15年前から関心を持っておりました。そういった意味で、この１年間皆さん方と構想策定に向かって、いろいろと意見を述べていきたいと思い

ますので、どうかよろしくお願いをいたします。

○座長　ありがとうございました。では。

○委員　中学校の子どもたちを担当している、担当しているって、やっている者なのですけれど、子どもたちにはやっぱり３年で終わるのではないのだよという話をしています。ということで、参加させていただいております。自分自身は、健康だなと思う。一番大事なことは、頭の健康、心の健康、体の健康、これが僕の生涯学習のテーマでこれから行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○座長　ありがとうございました。

○委員　私は、フレンドシップ・フォースといいます団体に入っていまして、これはアメリカの方に本部がありまして、国際交流をしながら、とにかく皆友達になれば戦争は起きないしというようなことでやっているのですけれども、それをやっていますときに、本当に自分が充実しているのですよね。本当に楽しく、毎日忙しいけれども、楽しく過ごせていると。そして、今までそうなるまでには、やっぱりＰＴＡも携わりましたし、町内会もしましたし、何かそういうボランティアの活動を通じまして、今こんなに何か自分が生き生きしていると。そういうとき見たときに、逆に中学生の子どもたちも、ちょっと近所で英語を教えたりしているのですけれど、見たときに元気がない、どうしてだろう。そして、学校、大学とかも、何か大学生も何となくその辺にちんたらちんたらと歩いているような大学生とか、終わったらニートになったとか、すごい何か寂しい、何というか生きがいを見つけていないのではないかしらというような感じがするのですよね。そして、高齢者の問題もありますし、本当にそういうことをずっと見ていた場合に、この生涯学習というのは、何か与えられてするものでなく、自分が豊かに人生を終われるかというか、亡くなるとき、何か変ですけれど、本当にこれでよかったと思えるようなそういう人生を一人一人が送れればいいなと。そういうような思いで今この場所におりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○座長　お願いします。

○委員　札幌市ＰＴＡ協議会という会で、会長という立場でやっているのですけれど、私、ＰＴＡやる前と今とどうかなというふうに考えますと、非常にたくさんのことを学んだなと。学びましたけれど、一般の、一般といいますか、お父さん、お母さんの感覚もうなくなってしまったかなという、反面そういう気もするのですけれど。先ほどいただいたアンケート調査の中で、現在生涯学習を行っていない理由というのでお聞きになっているのですけれど、結局は、生涯学習という定義に関連するのかもしれないですけれども、僕は、何をするか、生涯学習やっているとか、そういうことではないと思うのですよね。日々学習という、テレビ見るのも、仕事でいろいろな人とつき合うのも、そこから学ぶことというのは非常に多くて、私もそういう意味でＰＴＡ活動なんかをやっている中でも、いろいろな方と交わって、本当に教えていただいている面が多々あるなというふうに今思っているところなのです。ですから、何というのでしょうね、この会議の中でもそういう、

別に望む方に対して云々ではなくて、やっぱり豊かな人生を皆さんが送れるような、そういう視点からこの会議に参加したいというふうに思います。よろしくお願いします。

○座長　ありがとうございました。

○委員　短大生を担当しておりますけれども、そこで社会学専門で、特に家族社会学を専門としております。そんな意味では、家庭教育ということを考えなくてはいけないのかなと思いますけれど、家庭教育に関しては、もう私も何か言えるような今状況ではなくて、暗たんたる思いを持っているということで、暗中模索しています。それともう一つ短大の中で、生涯学習にかかわって日々感じていることは、短大は大体社会に出る最終関門なのですけれども、どうも学ぶことと社会に出て職業人として働くことが学生の中で直結していかないと。そのためにやっぱりキャリア教育を大学でどういうふうにやっていくかということがまず大きな問題が一つですね。もう一つは、先ほど委員からもありましたけれども、生涯教育というのは、みずから学びを求めていく意識だという部分なのですけれど、その意味でも短大生を見ていると、モラトリアムが小学校から余りにも学生の時期が長すぎて、与えられる教育になれすぎて、みずから学びを求めていくという意欲という問題もすごく、意欲の低下という問題もすごく重要な今危機意識を持っている。そういうようなところで、日々生涯学習と学生をどういうふうに結びつけていくかということで暗中模索しております。よろしくお願いいたします。

○委員　小学校の教諭をしております。私たち教員の世界というのは、どうしても同質性を求めてしまうのですね。異質性と出会うということに対して拒否反応を起こしたり、なかなかそういうことがありまして、私は、同質でなくて、やっぱり異質な世界と教師が出会って、その中に生まれてくるものがきっと子どもたちの中に返してあげられるのでないかなという私は感じしているのですよね。教師というのは、教える側と学ぶ側との二つ持っていなければいけないのではないかなと思うのですよ。そういう観点から私、きのうも、私校長になってからしているのは、お菓子屋さんとか職人の方に来ていただいたり、それから、きのう北海道東海大学の小林先生という国際政治学の方と学生が来て、ワークショップの話をしてもらったり、それから、新聞社のカメラマンに写真はどう撮るかとか、そんなことを先生方にお話ししてもらって、そういう中に同質でない異質な方との関係の中から、新しいものが生まれればなと思って私は委員になっているのですけれども。

私は昔、大学出る前に、今つぶれました拓銀に会社勤めしたことがありまして、私は教師になるつもりは全くなかったですけれども、実際に企業に入ってみて、企業で生活していると、やっぱり教育は大事だなと思って、それから大学へ行ったものですから、そんな中で生きるというようなことが、先生方どうしたらいいのだと、子どもたちにどんなものを伝えていったらいいかということを考えていく、そんなところにおりますので、どうぞよろしくお願いします。

○委員　本業はというか、会社は、テレビ番組ですとか、ＣＭとかビデオなど、映像制作をしております。私自身が大学は教育大学なのですけれども、父の会社を継がなければな

らなくて、この会社に入社して、半年で父が倒れてしまいまして、その後運よく経済番組を担当して、中小企業の経営者300人ぐらいの方に今までインタビューさせていただいたので、私が今あるのは、その方たちからの学び以外に何物でもないのですね。その方たちに人間としてどう生きるべきか、どうして年をとるようにできたというのを本当に教えていただいた。そういうその背景を持ちながら、最近、請われることが多くて、学生さんや高校生さんの方たちに、今の企業ってこういう人たちがやっているんだよと、こういう社会なんだよと。そういう事例をお話しするのですね。そうすると、本当に食いついてきてくれる。そういうような役割が自分にも最近生まれてきたのかなと思ったときにこのお話をいただいて、非常にいいタイミングでお話を、声かけていただいたと思っております。そういう意味では、先生さっきおっしゃっていましたけれど、キャリア教育、それから委員もおっしゃっていた、生まれたときから多分学びは始まっていて、だけれど、その意欲をどう育てていくか、どんな作業をしていくかという、そこに非常に興味があります。私個人としては、生涯学習というのは人間力、ここにも書いてありますけれど、人間力の育成だと思っているので、その人間力の育成というのを、生まれたときから死ぬまで、何か一本のそれこそ柱にして生涯学習のプランニングみたいなものが、だれでもそこにいつでもスタンスがあるよと。お父さんやお母さんが子どもが生まれた時点で、この子にどういう学びのチャンスを与えていこうかという、すぐ考えられるような札幌になったらすばらしいなというふうに実は理想を持っています。そんな視点からも今回は本当に楽しみに参加させていただきましたので、ぜひ学ばせていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

○委員　私のＹＭＣＡという団体は、社会教育の団体でございまして、昔からいろいろな形で社会教育。しばらく私の中で、生涯教育というのは、生涯学習ですけれども、昔は生涯教育と言っていたのですけれども、社会教育の区別が余りついていなかったのですね。どっちも同じなのではないかなと一時思っていたこともあるのですけれども、やっぱりこれは全然違うものだし、今私たちが主にやっているのは青少年に対する社会教育。いわゆる、まだ小さい子どものうちに社会の中で生きる適応力ではなくて、もっと社会に影響を及ぼすような人間を育成していく必要があるのだろうなというふうに思っていまして、その関係でいろいろな形で学んでいくということは、何のためにそれをやるのだというあたりを私たちは明確にしていかないと、なかなかそれ、子どもたちに言えないものですから。一つ言っているのは、もちろん自分のためだけれども、他者に対して、または社会に対して、奉仕や貢献のできるような人間になりなさいと。それはシステムがそうなっているからということで、システムはシステムとしてそれは必要なのかもしれません。ボランティア制度なんていうのがあって必要なのかもしれませんけれど、あくまでも自覚した個人といいましょうかね、そういったものを何とか我々の社会教育の理念の中で実現できないかな。平和の問題もすべて、こういうやり方でこういう法律があるからではなくて、個人の価値観の中でそのことができるようになればいいというふうに思っています。生涯学

習というのも、その流れの中で考えられればいいなというふうに思っています。そんな観点を持ちながら、この会議でいろいろ考えさせていただければなと思っています。

○座長　ありがとうございました。

○委員　私は、何も肩書きがなくて、本当にただの主婦で、それで小学校６年生の男の子の母親であって、本当にただ普通に暮らしているだけの人間で、まず、皆さんの多くの方の前でお話をするという機会もほとんどありませんので、とても話が下手だと思いますし、何かちょっととんちんかんなことばかり言ってしまうかもしれないのですけれども、生涯学習ということに関してはやっぱり興味がありまして、周りの市民レベルで、周りの方々にお聞きしても、生涯学習って何ということがまず始まるのですね。そして、その中に学校教育があり、家庭教育があり、社会教育があり、全体を含めた生涯教育、生涯学習。そしてそれは、人間がやっぱり最終到達する場面において、ある存在といいますか、自己を高める、そしてほかの方とも啓発し合うような関係、そういうものは何かすごく壮大な学習だと思っていたのですけれども、やはりほとんど知られていない現実というのもありまして、このたびこの委員に応募しまして、こうやって参加させていただくことができて本当にうれしく思います。たくさんのいろいろな方々のお話を聞きながら、いっぱいお勉強させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○座長　お願いします。

○委員　私は、テレビ番組の制作会社をして７年になります。今、20人弱スタッフがいるのですけれども、この７年で10人やめました。ほとんどが若い方で、理由は、教えてくれない、大事に、要は大事にされて与えられることばかり慣れていて、「自分で考えてやって」「どうするの」「先輩見てやって」と言って、ぽつんとして、いじめられたと勘違いをして、そこでコミュニケーションがうまくいかないで、私も随分と会社の中でもコミュニケーションの大切さを勉強しました。

生涯学習に関しましては、平成12年度から北海道教育庁の生涯学習講師バンク登録講師として、数えましたらもう100は超えています。全道各地の女性団体の方の講演と、あとは企業の新人教育、ちょうどことしと去年は札幌市教委の新任管理職の講師と10年と、あと12月１日に行ったかわからないのですけれど、札幌市の新任職員、先生方の研修もさせていただきましたが、やっぱりコミュニケーションですとか、第一印象、会話力、そういうコミュニケーション能力が高ければ社会でも対応してもらえるということを中心に、今私自身が人に対して講師としてできることは、コミュニケーションの大切さを伝えることだなということで活動をしております。

あとは１歳半の息子がおりまして、私は２カ月から保育園に預けていますが、ワーキングマザーの皆さんの大変さもわかりましたし、あと最悪だと感じましたのが、乳幼児を抱える母親が初めての社会との接点が４カ月検診なのですね。それまでは家にいて出られないし、どうしていいかがわからない。あと周りのお母さんたちと、母親が教育を受ける機会がないのですね。一番大事な赤ちゃんの育て方を教えてくれるところがないまま母親に

なって、今これでは大変だということで、ＮＰＯ法人子育て支援ワーカーズの一つの団体の方と協力していただきながら、サークルをつくりました、乳幼児の。そして、遊び方を教えてくれということで研修を、本当にちっちゃなのなのですけれど、やっています。その中で今課題なのですけれども、母親は昔から子どもの世話と家事はやっているのですけれども、子どものしつけですとか遊びはやっていないと思うのです。そんな暇ないと思いますから。私も母親から遊んでもらった記憶がないのですね。遊びやしつけは父や祖父、祖母、近所のお姉さんたちそんな人たちにやってもらったのですけれど、核家族で家の中にいて、家事と子どもの世話が精いっぱいで、子どもに遊んであげる余裕と方法が知らないまま、ずっと家の中で向き合っていましたら、テレビを見せたくなくても、テレビを見ている間に家事をしますので、結局やってはいけないとわかりながらやる、そして自分を責めるというような、孤独でもがいている母親たちの救済する手だてを何とかしてこの生涯学習、札幌市って北海道の中で一番の出生率が低いのですよね。1.29、1.27、札幌あたり1.01か1.02ですよね。それはやっぱりなぜかといった場合に、いろいろな支援センターはあるのですけれども、恐らくその現状を多分、検証されてはまだないと思うのですが、いろいろなところにみんな試しに行ってみるのですけれど、対応の悲惨さと傷ついて帰ってくることも多いですし、たまたま当たったところがすばらしければ、本当に天国と地獄ぐらいの支援の窓口の多分レベルもあると思うのです。多分個人のものだと思うのですけれども。そういった部分で、乳幼児を抱える母親を助けてあげなければ、恐らく少子化もとまらないでしょうし、子どものいろいろな部分って多分お母様なんか周りを見てもきっと悩んでいる方多いと思うのですけれど、社会的弱者で声を上げないので、多分サポートが回らない。子どもは育っていきますから、ある程度たってもう忘れてしまうのですよね、きっと。それであきらめてしまうというケースもあると思いますので、そこのところのケアをつくることの大切さを今一番考えていますので、この会のほんの少し、たくさんの方たちに対しての提案をしていかなければいけないと思うのですけれども、乳幼児の母親支援という部分も一つの生涯学習の、きっとこれから定年退職される方たちのケアをされていくと思いますので、いかにサポートの道筋をつくれるかというようなところも会議でお話しさせていただいて、一緒にアドバイスをしていただけたらと思います。長くなって申しわけありません。よろしくお願いいたします。

○副座長　私は、地域の方たちの生涯学習に、大学、特に北海道大学がどういう役割を担うべきかということを考えることを仕事にしております。それと学部生には、直接的に持っていませんが、大学院生が20人ぐらいおりまして、20代から60代まで、大学の現職の教授もいるし、道庁の職員もいるという。だから、生涯学習する人の研究教育をするという、そういう仕事をしています。それで、ずっと札幌市の生涯学習にかかわってきたのですけれども、今度の生涯学習推進構想の中で大事なこと、自分なりにこういうことが大事だなと思っていることが幾つかありますが、一つは、やっぱり生涯学習というのは、行政は教育委員会だけの仕事ではなくて、札幌市の行政全体の仕事だという、そういうことを

どういうふうにつくり出したらいいのかという。そういうことをもとにして、札幌市をどういうまちにするのかということを、市民も市の職員も加わって自由に話し合いができるような場所をどうつくるかという、それが一つです。それから二つは、やっぱり生涯学習ですから、専門用語では学社連携だとか、学社融合と言うのですけれども、学校と地域との結びつきをどうするのかという、それがやっぱりすごく大事なところだと思います。３番目は、これは今の札幌市のまちづくりプランの中でも重点になっているコミュニティーですよね。札幌市のコミュニティーを創造していく上で生涯学習、行政というのはどういう役割を果たすことができるのかという、この三つをすごく大事なこととして考えたいなというふうに思っています。

○座長　時間がタイトでございます。１分で。私は心療内科医をやっていまして、メンタルヘルスでもアップアップの患者さんがたくさんお見えになります。よく話を聞くと、結局は生きがいが喪失されているのですね。喪失体験と言いますけれど。生きがいの再構築は、やはりこの社会教育、生涯学習だろうというようなことで参加させていただいております。

どうも皆さんありがとうございました。

ぼちぼちクローズですけれども、その前に、幾つか確認をしておきたいことがございます。一つはまず、第２回目の会議ですけれども、これはこれから今、日程を調整いたしますけれど、資料の５に第２回会議の内容が書かれております。このようなテーマで会議を持ちたいと思いますが、よろしゅうございますか。この今後の課題のところに、例えば検証の問題だとか、長期・中期・短期、それをどう扱うか、それあたりも入れていただくということにして進めてまいりたいと思いますが、よろしゅうございますか。それで。

では、そういうふうにさせていただきます。

それとあと、事務局から何か連絡事項等ございませんか。

（連絡事項等　省略）

○座長　それでは、ちょうど時間でございます。年末の大変お忙しいときに御出席いただきまして、また、大変活発な深い討論ができたと思います。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。